

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和4年度学校評価計画

達成度(評価)	
A	: 十分達成できている
B	: おおむね達成できている
C	: やや不十分である
D	: 不十分である

<b>学校名</b>	小城市立桜岡小学校
------------	-----------

<b>1 前年度 評価結果の概要</b>	・前年度の新たな取組である「いのちの授業」の実践をはじめ、人権教育、特別支援教育、教育相談など、豊かな心を育む取組や一人ひとりの困り感に寄り添う支援を強化・充実させたことにより児童の自己有用感は徐々に高まりつつある。また、1人1台端末を活用した授業づくりや生徒指導の課題についても学年間で情報共有し、チーム対応、共通実践が進み、成果が見られた。全体指標の項目1「自分には、よいところがあると思う」は78.0%、項目2「先生はあなたのよいところをほめてくれる」は80.4%であった。取組の成果は少しずつはあるが、着実に現れている。項目1は到達目標80%に届いていないため、引き続き実践を積み重ねていく。
----------------------	--

<b>2 学校教育目標</b>	<p>自らを友達を大切に思い、未来に向けて花開こうとする桜っ子の育成</p> <p>— 日々の積み重ねを大切にする学校づくり —</p>
-----------------	--

<b>3 本年度の重点目標</b>	<p>「命・心はひとつ」「ひとつずつの積み重ね」を合い言葉に、一人一人の教職員が、学校教育目標の実現に向けての意識を高く持ち、子供の「自己有用感」を高める取組を推進する。～実践蓄積の深化→前年度を継承しつつ、より洗練・深化・徹底する。～</p> <p>◆全体指標「自分には、よいところがあると思う」80%以上、先生はあなたのよいところをほめてくれる85%以上)</p> <p>① 教職員の協働意識・体制の向上……○学校目標と一貫性のある学年目標の設定 ○学年の協働・連動性、校内の報告・連絡・相談の充実 ○年間指導事項の共通理解の徹底</p> <p>② 自己実現を図るための「分かる授業」、「生徒指導の三機能」の実践……○「背・目・手」「か・つ・お」「目で聴く」など、学習規律の徹底 ○学力向上に結びつくICT利活用の蓄積 ○決めさせ、考えさせ、認め合う授業の実践 ○「出番」「役割」があり、「承認」される授業・活動の創造</p> <p>③ 子どもの困り感に寄り添う支援、やさしい子を育む指導の充実……○特別支援教育に関する職員の知識の向上 ○関係機関、専門人材と連携した教育相談体制の構築 ○人権・同和教育、いのちの学習等、心を育てる教育のさらなる充実 ○地域人材を活用した地域に関する学習の活性化</p>
-------------------	--

**4 重点取組内容・成果指標**

(1) 共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組	成果指標(数値目標)	具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師85%以上 →学校評価職員アンケート	○学力向上対策評価シートの自己目標を自覚し、学期毎に振り返りを行うことにより、知識の定着と表現力向上のためのPDCAサイクルの構築を図る。 ・授業展開の見直しと家庭学習の改善を行う。							※かこい子プロジェクト ・学力向上コーディネーター
	○校内研究を軸とした主体的・対話的で深い学びの展開	○「桜岡スタイルでの授業の実践や、児童について力を常にふり返り授業改善に努めた。」と回答した教職員80%以上 →学校評価教職員アンケート	○全ての授業で、「やり方を決めよう」「かんがえよう」「たかめ合おう」の合い言葉にした「桜岡スタイル」での授業の実践に取り組む。 ○一人一台端末を、どの段階でどのようなねらいで活用するか教師が意図をもって使用する。 ○一人一台端末の使用方法を職員間で共有したり、ミニ研修会を行ったりし、一人一台端末を有効に利用する。 ○学習規律定着のために「背・目・手」を合い言葉に学習の構えをつくる。 ○「か・つ・お」を合い言葉に、学習の準備を行っている」と回答した児童80%以上 →学校評価児童アンケート							※かこい子プロジェクト ・研究主任
	○児童の基本的な学習習慣の育成	○『背・目・手』と『か・つ・お』を共に守れた」と回答した児童80%以上 ○学習の終わりに、『学習の振り返りができている」と回答した児童80%以上 →学校評価児童アンケート	○学習の終わりに、『ふりかえ〜るくん』を用いて振り返りの視点を示し、学んだことを自分の言葉で振り返り、表現できる児童の育成							
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「自分にはよいところがある」と答えられる児童80%以上。	○「心を考える日」に人権教室を3回、人権集会1回を実施することにより、人権週間の充実を図る。 ○道徳教育やいのちの学習を通して、自他の生命を尊重する心を育てる。							※やさしい子プロジェクト ・人権・同和教育担当 ・教育相談担当 ・道徳教育
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事業対処等)について組織的対応ができていると回答した教員90%以上	○いじめの認知・認知の組織的対応マニュアルの共通理解を図る。 ○いじめの対応についての研修・会議を年間に2回以上行う。							※たくましい子プロジェクト ・生活指導担当
	◎自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちを高める教育活動	○「あなたは、今がんばっていること(目標)や将来の夢がありますか」について肯定的な回答をした児童(小学校5・6年生)80%以上	○「生徒指導の3機能」を意識した、決めさせ、考えさせ、認め合う授業・活動の実践 ○学級活動等の時間の中で、「出番」「役割」があり、「承認」される授業・活動を創造し、実践を積み重ねる。 ○様々な活動に対する目標や振り返りをキャリアパスポートを活用して行う。							
●健康・体づくり	●運動習慣の改善や定着化	●授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の児童生徒70%以上	○共通(学級・学年間交流)の時間を計画的に実施し、外で遊ぶ楽しさを実感させる。 ○自力登下校や休み時間に遊ぶことを促すような声をかけ、体を動かす習慣化を意識させる。							※たくましい子プロジェクト ・体育主任 ※やさしい子プロジェクト ・異学年交流
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。(1か月45時間、1年間360時間を超えないようにする。)	○時間外勤務時間の実態を年2回全職員で共有し、アンケートを実施して課題の洗い出しをする。 ○校内安全衛生委員会を年2回開催し、職場環境の見直し、業務改善について改善策を出し、実践する。							・教頭 ※校内労働安全衛生委員会(多忙化対策委員会)

(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目										
評価項目	重点取組	成果指標(数値目標)	具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	主な担当者
○特別支援教育の充実	○特別支援教育に対する教職員の知識・理解の更新、向上	○見守りたい子の情報共有を児童の支援に生かしたと回答した教員が90%以上  ○多様な学びの場を保障できたと回答した教員が80%以上	○特別支援教育の研修を講師を招聘して行い、教員の専門性を高める。 ○特別支援学級を学年グループに配置し、学年の連携を図る。 ○年度初めに特別支援教室の環境を整える。校内支援委員会を通して、多様な学びの場を提供し、個に応じた支援をする。							※やさしい子プロジェクト ・特別支援教育コーディネーター
○教育相談体制の構築	○悩みを抱える児童の困り感を共有し、対応できる体制の構築	○「心配なことや困っていることがある」と回答した児童が20%以下	○覚知した児童の状況について管理職や教育相談担当、担任等と情報共有を行う体制を整備、構築する。 ・「見守りたい子」アンケートの実施 ・「見守りたい子」の共有 ・SC、SSW、SSP、支援センター等との連携							※やさしい子プロジェクト ・教育相談担当

<b>5 総合評価・次年度への展望</b>	●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育
-----------------------	------------------------